子どもの歯並び、いつ相談すべき？

日本矯正歯科学会・日本臨床矯正歯科医会の
ガイドラインから読み解く、
早期治療（Ⅰ期治療）の目安とメリット



歯科矯正医の診断に基づく、安心の成長ガイドブック

Gemini Notebook

ネットにあふれる相反する情報。結局、どちらが正解？

「永久歯が生え揃うまで待つべき」という意見と「早めに始めた方が良い」という意見。
保護者の皆様が迷うのは当然です。



永久歯が生え揃うまで待つべき？



今すぐ始めるべき？

結論から言えば、「すべての子供に当てはまる一律の正解」はありません。
画一的に待つのではなく、歯科医師による個別の成長予測に基づく診断によって
開始時期を見極めることが強く推奨されています。

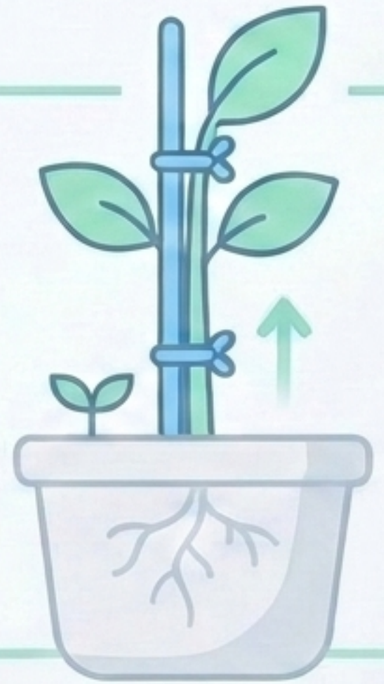
Gemini Notebook

「Ⅰ期治療（小児矯正）」の本当の目的とは？

Ⅰ期治療は、生えていることをきれいに並べるのではなく、正しい咬合へ咬合誘導することです。

放置された
骨格のズレ





Ⅰ期治療：
正しい方向へのガイド

成長という最大の味方：上下の顎の骨が成長している時期にしかできない「骨格的なアプローチ」です。

正しい方向へのガイド：無理な力をかけるのではなく、顎が本来持つ正しい成長方向へ導く「添え木」の役割を果たします。

Gemini Notebook

成長をコントロールできる「ゴールデンタイム」

3〜5歳

乳歯列期

6〜12歳

混合歯列期

ゴールデンタイム：
Ⅰ期治療

12歳以降

永久歯列期
（Ⅱ期治療）

6歳〜12歳頃の「乳歯と永久歯が混ざり合っている時期（混合歯列期）」が、
顎の成長をコントロールし、将来の歯が並ぶ土台を作るための
最も重要な期間です。

Gemini Notebook

ガイドラインから読み解く、早期治療の「3つの柱」



1. 骨格バランスの改善

上顎と下顎の成長のアンバランス（出っ歯・受け口）を、顎整形力を用いてコントロールします。



2. 悪習癖の除去

歯並びを悪化させる原因となる指しゃぶり、舌の癖、口呼吸などを早期に物理的に遮断します。



3. 萌出異常の予防

永久歯が正しい位置に生えてくるためのスペースを確保し、骨の中で引っかかるトラブルを防ぎます。

Gemini Notebook

保護者のための「視覚的チェックリスト」

このような歯並び・噛み合わせのサインが見られたら、自己判断で待たずに、歯科矯正医による「Ⅰ期治療の必要性」の診断を受ける目安となります。



上顎前突（出っ歯）



前歯部開咬（オープンバイト）



反対咬合（受け口）



叢生・萌出異常（デコボコ）

Gemini Notebook

深掘り①：出っ歯（上顎前突）を早期に治すべき最大の理由

**ガイドラインでも指摘されている通り、上顎前突の早期治療には
見た目の改善以上の重要な医学的理由があります。**

前歯の破折・外傷リスクの回避



上の前歯が突出している子どもは、転倒時などに前歯を折る（外傷）リスクが極めて高くなります。早期にオーバージェット（前後のズレ）を減らすことで、この危険を大幅に回避できます。

発音・心理面への影響



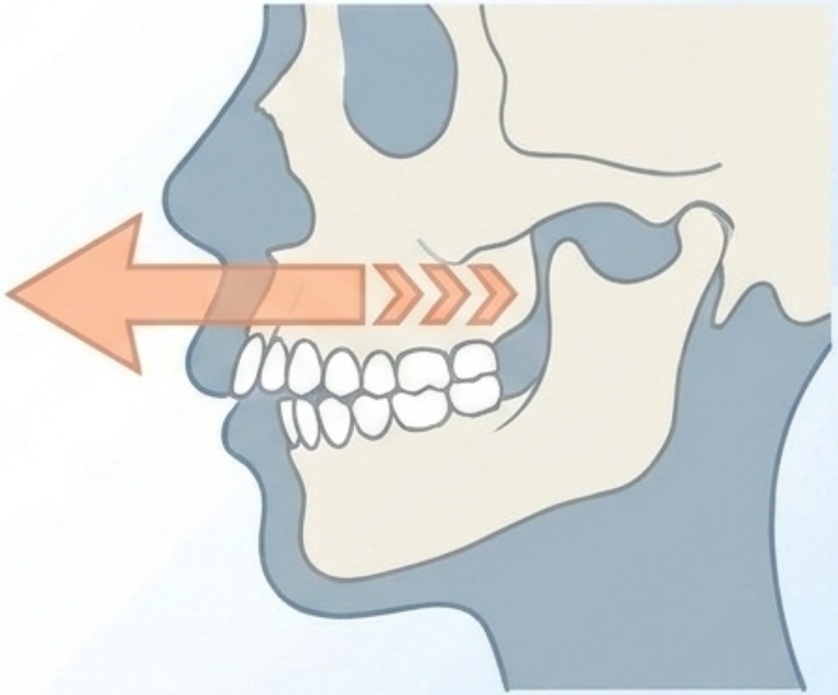
からかいの対象になるなど、思春期前の心理的負担を軽減する効果も期待されます。

Gemini Notebook

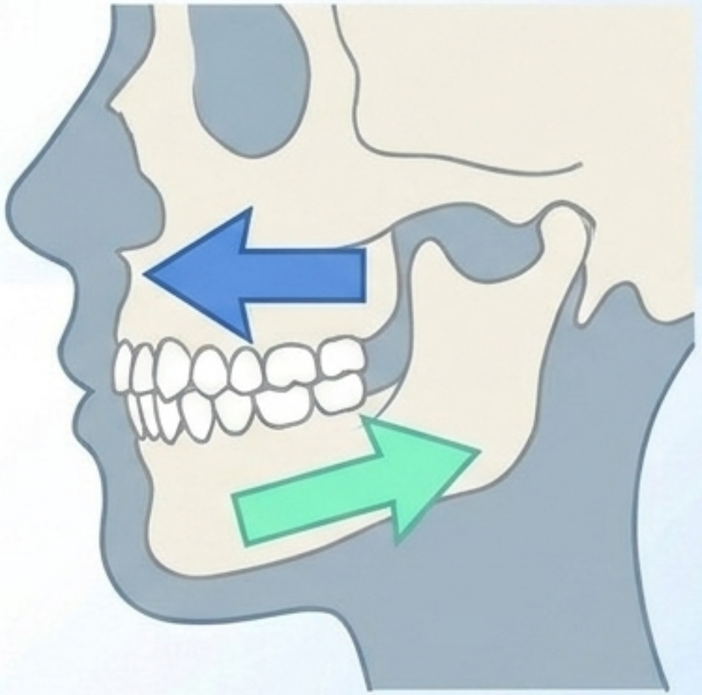
出っ歯に対する「顎整形力（がくせいけいりょく）」のアプローチ

学会のEBMデータにおいても、ヘッドギア等の装置を用いた早期治療は、上顎の過剰な成長を抑え、前歯の突出を効果的に改善することが確認されています。
歯だけを動かすのではなく、「骨格全体のバランス」を整えるのがI期治療の特長です。

放置された過剰な成長



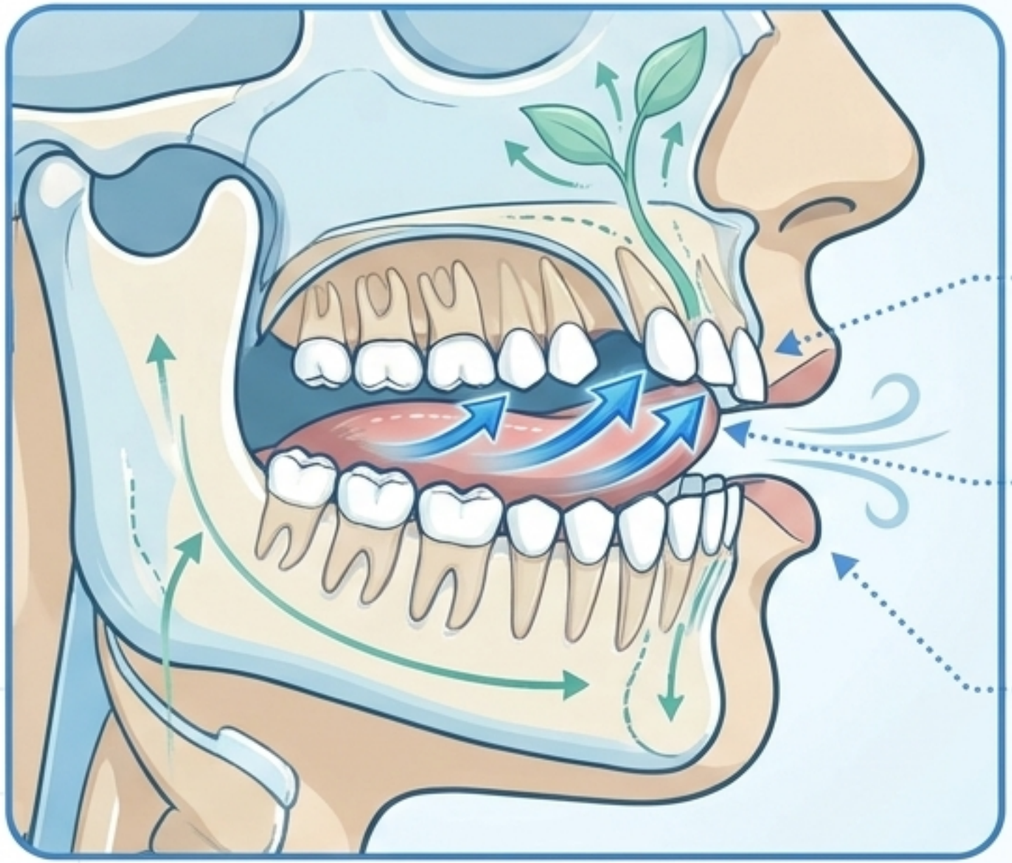
顎整形力によるバランス調整



Gemini Notebook

深掘り②：開咬（オープンバイト）を引き起こす「見えない力」

奥歯で噛んでも前歯が開いてしまう「開咬」。その多くは遺伝だけでなく、
日々の「悪習癖（環境要因）」が歯の正常な成長を邪魔することで引き起こされます。



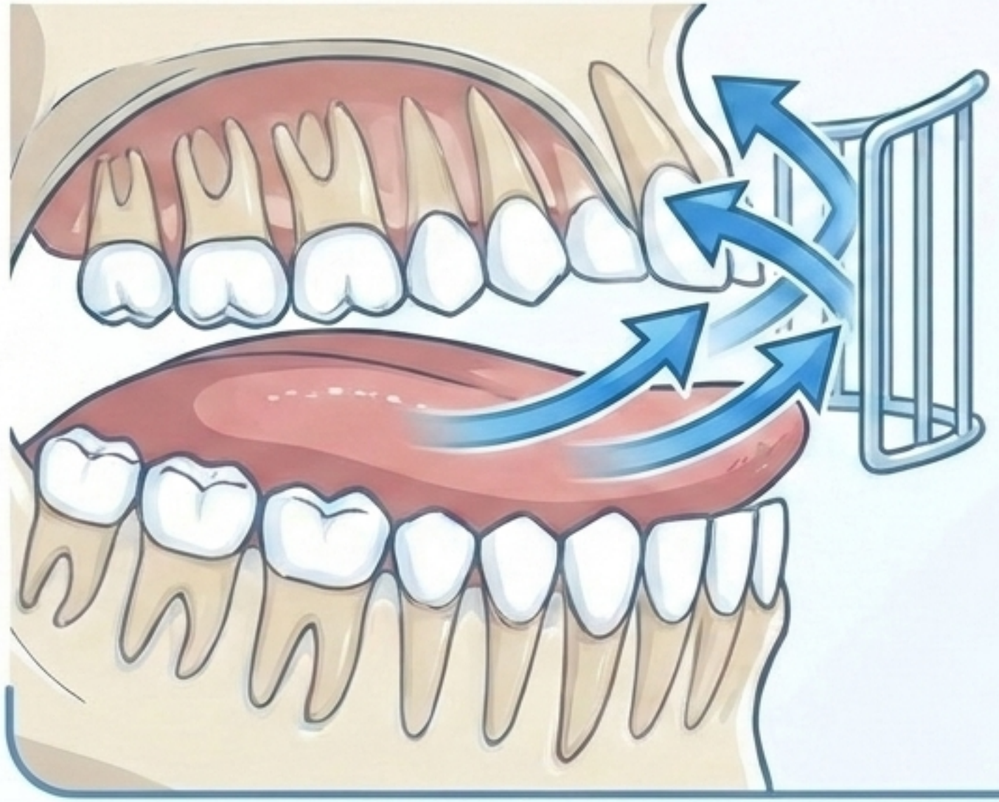
主な環境要因（Risk Factors）

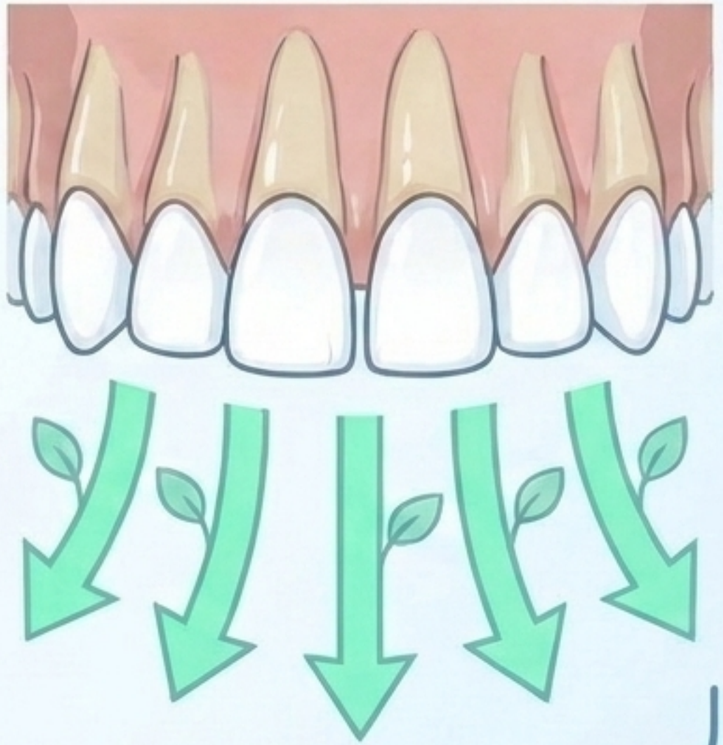
- 指しゃぶり（長期間の継続）
- 舌突出癖（飲み込むときに舌を前歯に押し付ける癖）
- 口呼吸（唇を閉じる力が弱まる）

Gemini Notebook

開咬に対するアプローチ：「癖の遮断」と「自然な成長」

日本矯正歯科学会のガイドラインでも、タングクリブ等の装置による早期介入は
「オープンバイトの改善」に有効であると推奨されています。
物理的に舌の癖を遮断することで、歯が本来の正しい位置へ生えるのを促します。

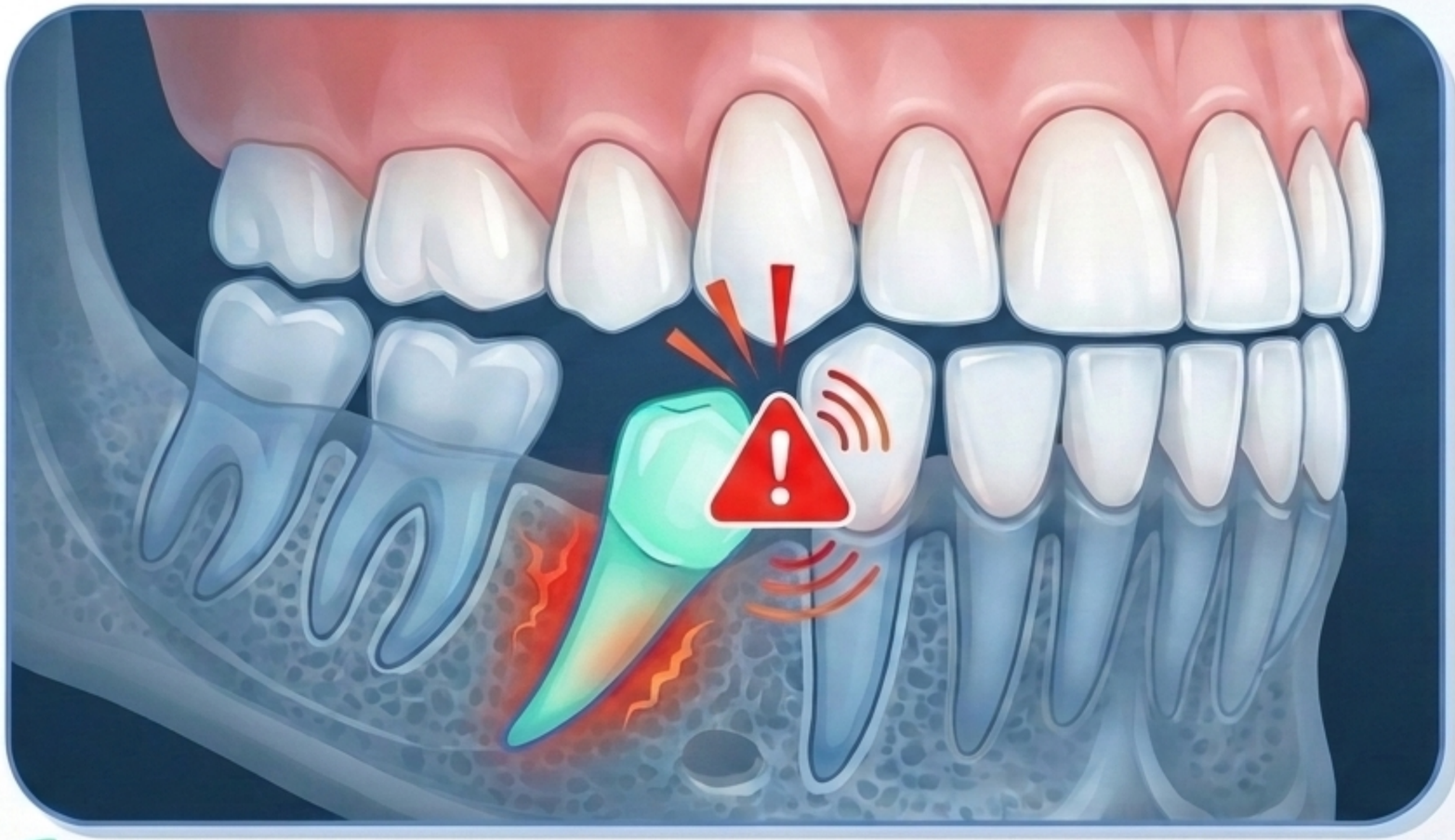




Gemini Notebook

目に見えないトラブル：「歯の萌出（ほうしゅつ）異常」

見た目の歯並びが普通でも、骨の中でトラブルが起きていることがあります。



ガイドラインでは、上顎犬歯などが間違った方向へ生える（異所萌出）ことで、隣の歯の根を溶かしてしまうリスクが指摘されています。
これらはパノラマX線やCBCT（歯科用CT）を用いた「歯科医院における検査」が必要です。

Gemini Notebook

「様子を見る」ことの将来的なリスク

適切なタイミングでのＩ期治療を逃すと、骨格のズレや習癖が固定化してしまいます。



早期に介入した場合	成人後まで待機した場合
成長を利用して骨格の土台を整えるため、将来的な負担が減る可能性が高い。	骨格の成長が止まっているため、重度の場合「健康な永久歯の抜歯」や「顎の骨を切る外科的矯正治療（手術）」が必要になるリスクが高まります。

Gemini Notebook

日本矯正歯科学会の指針



『永久歯が生え揃うまで待つべき』と一律に考えるのは危険です。上顎前突などの小児矯正は、歯科矯正医が早期治療の必要性と効果を適切に診断した上で行えば、極めて良好な結果を得られます。

多様な症状をひとくくりにせず、歯科矯正医による精密検査と長期的な治療計画に基づく診断が何よりも重要です。

Gemini Notebook

アクションプラン：いつ相談に行くべき？

Box 1

前歯が生え変わり始める「6〜7歳」頃である



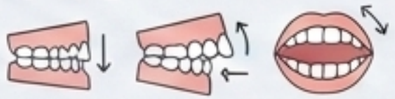
Box 2

指しゃぶり、口呼吸、舌を出す癖が治らない



Box 3

受け口、出っ歯、前歯が噛み合わないなどの見た目のサインがある



Box 4

学校の歯科検診で「歯並び」や「噛み合わせ」を指摘された



1つでも当てはまれば、まずは「歯科矯正医へ初診相談」へ。自己判断での待機は避けましょう。

Gemini Notebook

子どもの未来の笑顔の設計図を、一緒に。



Ⅰ期治療は、子ども特有の「成長」を
最大の味方につける骨格的アプローチです。

出っ歯の外傷予防や、開咬の悪習癖除去など、
早期介入には明確な医学的メリットがあります。

「まだ早いかな？」と迷ったら、まずは専門家に相談を。
一人ひとりに最適なスタート時期をご提案します。

Gemini Notebook